5年後の笑顔を81マスに♪ 旭の未来

旭地域にある5つの**地区まちづくり推進委員会**と、**各まちづくりセンターの職員**が、**「5年後の地区像」**をテーマに話し合いを行いました。

はじめに、現行の「地区まちづくり計画」を読み返し、目指す地区像や既存事業の位置づけ等を確認しました。次に、地区の良さや課題の洗い出しワークを通じて現状を可視化したうえで、「目指す5年後の地区像」を検討しました。

地区像を考えるにあたっては、マンダラ手法を用いました。これは、アイデアを整理し思考を深めていくには効果的とされており、模造紙などの紙があれば誰でも作成できます。野球の大谷翔平選手が高校時代に目標達成のために使っていたことで広く知られるようになった手法です。今回、地域の皆さんの経験を共有しながら、参加者から多様性に富んだ実現可能性が高い意見が出ていました。

参加者は、5つのグループに分かれてこのワークに取り組みました。アンケートでは、8割以上の参加者から「参考になった」との回答が得られました。今回の話し合いをきっかけにして、各地区で継続して見直しを行いながら、より良いまちづくりにつなげていくことが期待されます。

地域の今を知り、これからを考える場がまちづくりの大切な一歩となります。

課題の洗い出しワーク

アイデアの整理

コーディネーターのつぶやき

毛利 美和子

1月22日(木)雲城まちづくりセンターにて「**ふるさと学習会**」が開かれました。

今回の演題は「浜田藩の苦悩と決断」。講師は浜田市教育委員会の渡部孝哉さんでした。

「浜田城主が城を焼いて逃げた。」と私たちは聞いていますが、「それは史実ですか？」という問いに「発掘調査や文書から天守は焼失ではなく地震に因るもののようで、当時の情勢から城を出るという苦渋の決断をしたのだろう。」と話されました。

この「ふるさと学習会」について、初期の案内文には、“金城自治区6公民館では「ふるさとのひと・もの・こと」について学び、ふるさとへの愛着と誇りをもつことをねらいとした学習会を実施していきます。ご都合のつく会場へ気楽にご参加いただきますようご案内します。”と記載されています。

内容は、歴史に限らず、神楽、高齢化社会の困りごと、健康、安心・安全な暮らし、まちづくり等々多岐にわたっています。毎月1回のこの学習会が地域の皆さんにとって、有意義なものとなっていると思います。

私も次回はどなたのお話なんだろうか、毎日を元気に過ごすためのヒントにしたいなと楽しみにしています。

浜田市地域政策部
まちづくり社会教育課
【電 話】0855-25-9201
【FAX】0855-23-1866
【メール】machizukuri@city.hamada.lg.jp

（まちづくりコーディネーター執務室）
【電 話】0855-25-9007

◎まちづくりコーディネーターの活動の様子は下記の二次元コードから♪
【依頼申請コード】【Instagram】

写真:大辻町連合会モルック交流会

全ての人が一体となった持続可能で元気な浜田市

まちづくりコーディネーター通信

第17号 令和8年3月末発行

P1. 令和7年度 下半期の活動報告
P2. 令和7年度 協働のまちづくりフォーラム
P3. まちづくり活動報告
P4. 旭地区まちづくり推進委員会 & 旭地域まちづくりセンター連絡会/コーディネーターのつぶやき

令和7年度 まちづくりコーディネーター

「下半期」の活動報告

1 まちづくり推進委員会の設立

◆地域の未来を一緒に考える会議をサポート◆

地域のめざす将来像に向けて、港町、元浜町、生湯町の定期的な話し合いに参加をしています。まちづくりは日常にあることを知ってもらうために冊子を作成して回覧しました。

2 まちづくり活動推進

◆地域でのイベントや取組を応援しています◆

地域での会議やイベントに参加し、活動がスムーズに進むように、一緒に考えお手伝いをしています。直接、地域住民の声が聞け、関係づくりができる貴重な時間になっています。

3 コーディネーター活動情報発信

浜田市 まちづくりコーディネーター

【Instagram】フォローお願いします

◆地域の“がんばり”を伝えています◆

下半期は、Instagramのフォロワーが500人を越えました。更新やまちづくりコーディネーター通信の発行により、地域活動の様子を発信しています。

4 地区や地域を超えた連携づくり

◆他地区・他地域との連携による課題解決◆

下半期は地区を越えた連携がたくさんありました。単独ではできないことも地区を超え一緒に行うことで、交流が生まれ楽しさも大きくなります。今後も地区・地域を越えた連携により一体的なまちづくりを目指します。

協働のまちづくりフォーラム

2月15日(日)、令和7年度浜田市協働のまちづくりフォーラムが開催されました。**島根大学大学院教育学研究科の大野公寛氏が「地域のコミュニティづくり、つながりづくり」**と題して講演され、その後、地域課題の解決に取り組むまちづくり団体と、子どもを真ん中に据えて地域づくりを進めているまちづくりセンターの事例を発表されました。

実践発表 1

とうがねまちづくり推進委員会

協働の環境保全　唐鐘川浄化作戦

～唐鐘川を救うのは唐鐘人だ！～

【Hiビーズとは】

【Instagram】

@TOUGANEMACHIDUKURI

河口付近で長年悪臭が続く唐鐘川。行政による河川整備や地元住民の清掃活動でも改善せず、住民は諦めかけていました。そのような中、「やる前から諦めたくない。」という仲間が集まり、浄化作戦を開始しました。

- 令和3年度　アンケート実施　最大の課題は唐鐘川の環境改善
- 令和4年度　調査・視察　データ集め　**Hiビーズを知る**
- 令和5年度　「諦めずにやってみませんか」の声　**一致団結**
- 令和6年度　浜田市まちづくり総合交付金　課題解決特別事業　**Hiビーズ投入作業**
- 令和7年度　課題解決　特別事業継続　**Hiビーズ投入作業継続**

感謝してくれる住民がいることが力になる

重量のあるHiビーズ投入は、川の中での作業のため大変過酷です。それでも「きついけれどなぜか楽しいんですよ！」と笑顔で語る背景には、作業を見守る地域の人々の姿や「川の臭いが少なくなった。」との声があります。地域の応援を追い風として先駆的な環境保全活動に今後の期待が膨らみます。

実践発表 2

周布まちづくりセンター

スマイルフル♪

～つながりづくりを通して～

【Instagram】

SUFU.MACHIZUKURI.CENTER

広大なエリアを持つ周布まちづくりセンターでは、つながりを深めるため、各地域から運営委員を選出しています。様々な団体の代表的な活動にまちづくりセンター事業の**「子ども未来チャレンジ」**、学校運営協議会事業の一端を担う**「茶っ友隊」**、周布地区まちづくり委員会事業の**「グリーンカーペットフェスティバル」**などがあります。 いつでも子どもを真ん中に据え、その声を受け留め、「学び」「集い」「つながり」を大切にした地域づくりの発表でした。

懇親会

協働のまちづくりフォーラムの終了後、地区まちづくり推進委員会を対象に懇親会が行われました。和気あいあいとした雰囲気で、他地域との新たな交流が生まれていました。また、それぞれの委員会が抱える課題や今後、力を入れたいことなど、意見交換を行っていました。

田町まちづくり推進委員会　～次世代へ無理なく楽しく緩やかに！～

平成28年度の設立から10年経過した、田町まちづくり推進委員会。親壮会・防災士会と並行して若者会(仮称)が繋がり始めています。コロナ禍後に再開した、鏡山天満宮の祭などで若手の力が元気や活力をもたらしています。

田町は転入者が微増している所で、「世代・住民間のつながり」を重視し、**顔の見える関係づくり**を目指しています。 特色ある活動に、遠く県内外から親元を離れて生活する島根県立浜田水産高等学校寮生を交えた清掃・防災事業があります。令和7年度は若者会が主催し、レンガで“防災ロケットストーブ”を作りました。日ごろまちづくり活動に協力してもらっている寮生と地域住民とが一緒にバーベキューを行い、楽しく交流をしました。

若者会代表の川本八州浩(かわもとやすひろ)さんは、「“今度いつ集まる～？”と、いう仲間からの連絡が嬉しい。集まるメンバーが固定化してきているので、**情報発信**と**広報**で、誰もが参加しやすくしたい。令和8年度は、親壮会・防災士会への活動協力をしながら、若者会主催の事業ができればと思っている。地域の方と協力し、**安全・安心**で**楽しめる町**になってほしい。」と話しておられました。これからの取り組みがとても楽しみです。

原井笠柄まちづくり委員会　～会話が弾んだ文化祭開催！～

原井笠柄まちづくり委員会では、令和6年3月に閉校した雲雀丘小学校を活動拠点として、地域のみなさんが気軽に集まり、顔の見える関係づくりができる場をつくっていきたいと考えておられます。**日頃からのつながり**は、もしもの災害のときにも、**安否確認**や**助け合いにつながる**大切な力になります。

11月16日、旧雲雀丘小学校で文化祭が開催されました。会場には、写真、書道、絵画、編み物、彫刻、竹細工、木工など20の展示ブースが並び、バンド演奏の発表も行われました。当日は地域のみなさん約50人にお越しいただき、作品を見ながら会話もはずみ、久しぶりにゆっくり交流できたという声も聞かれました。

「来年(令和8年)もやってほしい」「今度は私も出展したい」といった、嬉しい声もあり、地域にたくさんの素敵な作品や特技をお持ちの方がおられることを改めて感じました。

来年(令和8年)は、小学生や中学生のみなさんの作品展やステージ発表なども取り入れ、若い世代や子育て世代のみなさんにも、もっと気軽に参加していただける文化祭にしていきたいと考えておられます。